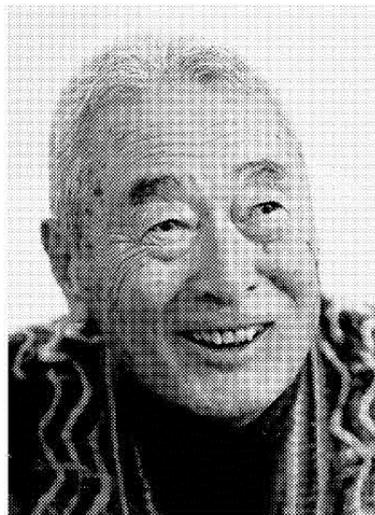




1969年10月10日の後楽園球場は巨人×中日戦。小学生だった私は家の白黒テレビにかじりつくようにしてこの瞬間を目撃しました。中日の先発は、昨年亡くなった星野仙一投手。巨人の金田正一投手は、5回から登板し、この日、通算400勝という金字塔を立てたのです。誰もその記録を破れぬまま50年が過ぎ、10月6日、金田さんは都内の病院で亡くなりました。享年86。死因は急性胆管炎による敗血症でした。

126 プロ野球選手 金田正一



ワシを抜くやつはおらん

付けられるような痛みがあった。これまで経験したことがない痛みで、ワシでも我慢ができなかった。この時は11日間の入院で退院したもの、8月8日、今度は胆管炎での入院となりました。

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療か在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

うだん)、吐き気などの症状が出ますが、高齢者の場合は発熱程度で診断や治療が遅れるケースもままあります。ですから、在宅医療においても高齢の患者さんに38度以上の高熱がみられた場合、肺炎、胆道の炎症、尿路の炎症の順で疑うように後輩医師に教えています。血液検査と腹部超音波・CT検査で診断が確定します。胆道感染症は時に時間との争いになることがあります。肺炎などと誤診して手遅れになることだけは避けたいのです。

診断が遅かったわけではないと考えます。しかしその前に心筋梗塞で入院していたので、体力の低下もあり敗血症に陥ったのでしょうか。治療の基本は

まず絶食と抗生物質です。炎症の程度が軽ければ在宅においても治療は可能です。しかし炎症が高度でショック状態に陥りそうなら、うっ滞した胆汁を内視鏡や外科的処置で緊急に体外に排出させる必要に迫られます。金田さんは入院以降、食事もままならなかったそうですが、集中治療室に入ってから、看護師から名前を聞かれると、「長嶋です」とおなじみの冗談を言っていたとか。明るくて冗談好き。だけど野球に関しては誰よりも真剣でひたむきだった金田さんの、強気な発言が大好きでした。

「ワシの記録を抜くやつはおらん。400勝という恐ろしい記録を残した。でも誰も見向きもしない。誰もできないから、見向きもしないんだ」…シビれますねえ。「ワシの記録を抜くやつはおらん」。これがカネヤんのリビングクワイル(生前の遺言)だったのかもしれない。

「死ぬかと思ったよ。いま思えば前日、寝る前に何かおかしいなと違和感があったが、そのまま寝て、朝起きると胸を締め